

下侍塚古墳(大田原市)

しもさむらいづか

左手が下侍塚古墳/正面遠方に見える小さな高まりは下侍塚古墳群



下侍塚古墳/前方後方墳/4世紀末頃の築造/右手前が前方部、左奥が後方部/右手に説明板が立っている



元禄5年(1692年)に水戸藩主徳川光圀の命により、日本で最初に本格的な発掘調査が行われた古墳としても知られている

国指定史跡

下侍塚古墳

下侍塚古墳は、那珂川右岸の段丘上に位置する前方後方墳で、那須地方の6基の前方後方墳のなかでは上侍塚古墳に次ぐ規模である。

本墳は、元禄5年(1692)、徳川光圀の命により小口村(那珂川町小口)の庄屋であった大金重貞らが上侍塚古墳とともに発掘調査を行なっている。鏡・鎧片・鉄刀片・大刀柄頭・土師器壺・同高坏などが出土したが、これらは、絵図にとるなど調査結果を記録したうえで松板の箱に収め、埋め戻している。

さらに墳丘の崩落を防ぐために松を植えるなどの保存整備も行なわれた。これら調査と調査後の遺跡の処置は、日本考古学史上特筆されるものである。

昭和50年には土地改良事業にともなう周濠調査が湯津上村教育委員会により行なわれた。その結果、古墳の規模、周濠の形状や葺石などが確認され、墳丘から崩落したと考えられる土師器壺などが出土している。

古墳の築造は、出土遺物や墳形の特徴などから4世紀末頃(古墳時代前期)と考えられている。

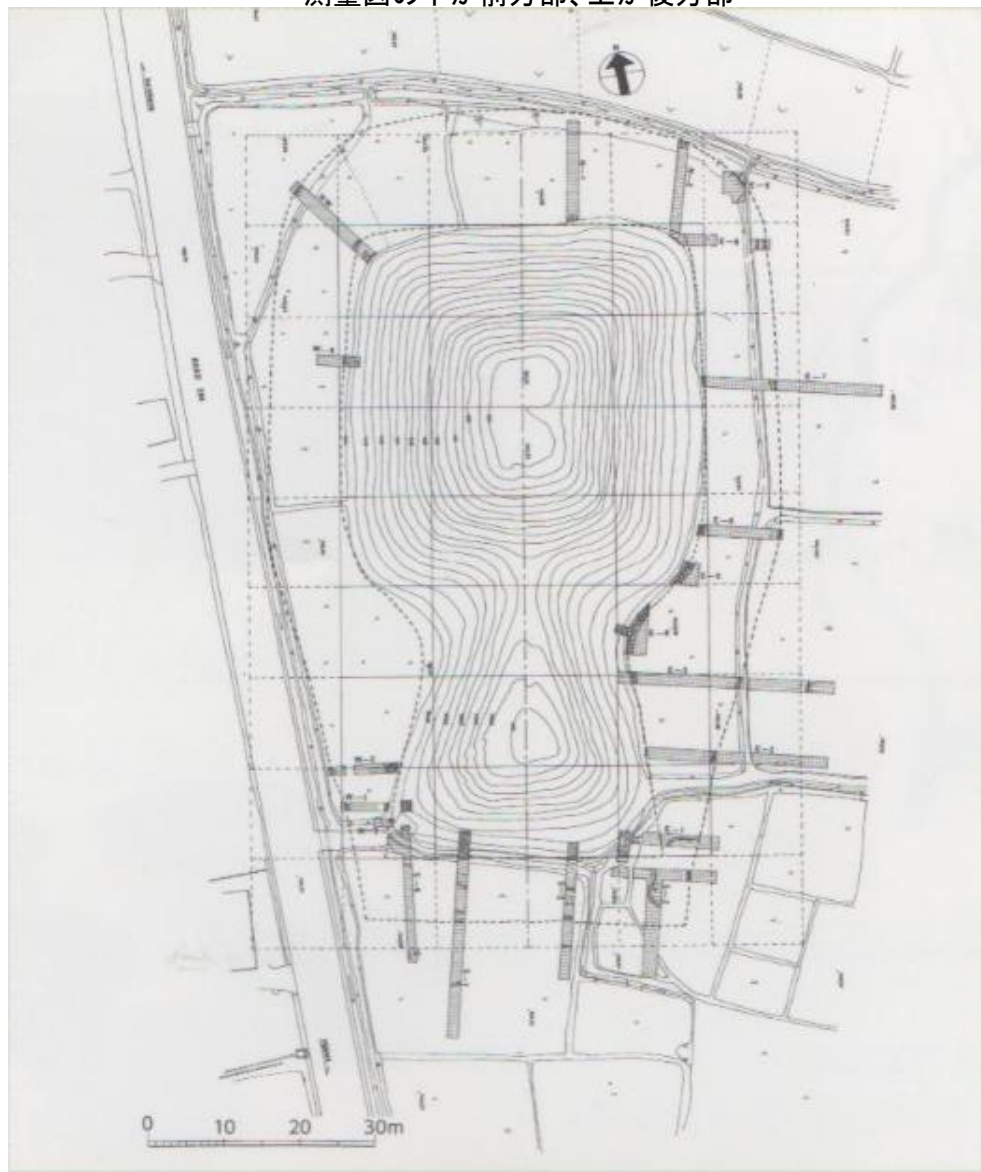
(昭和26年6月9日 国指定)

墳形	前方後方墳	全長	84.0m
後方部	長さ 48.0m	幅	48.0m
前方部	長さ 36.0m	幅	36.0m
		高さ	9.4m
		高さ	5.0m



大田原市教育委員会

測量図の下が前方部、上が後方部



大田原市なす風土記の丘湯津上資料館パンフレットより

前方部裾に立派な標柱が立っている



そこから左手を見たところ/前方部の裾からくびれ部、後方部が見える/墳丘の周りには周濠が巡っていた



同じく右手を見たところ



これは南側から前方部の墳丘を見たところ



これは右手で前方部の裾からくびれ部、後方部の裾とそれを巡る周濠を見たところ



これは東側からくびれ部を見たところ/左手が前方部、右手が後方部



これは後方部の後を巡る周濠を見たところ



さて、これは前方部墳頂から後方部方向を見たところ



これは後方部墳頂から前方部方向を見たところ



大田原市指定史跡

侍塚古墳群のご案内

昭和41年2月15日指定
大田原市湯津上地内

下侍塚古墳のすぐ北側には侍塚古墳群と呼ばれる古墳群が展開しています。現在確認できるのは8基ですが、かつては10基ほど存在したものの戦後の開田等により、消滅したといわれています。

前方後円墳である1号墳、方墳である8号墳を除く6基は円墳とみられています。5号墳と8号墳については、部分的な発掘調査によって、ある程度古墳の状況が把握されています。

それ以外の古墳については、平成10年(1998)から平成13年(2001)にかけて、墳丘の測量調査が行われ、墳形と大きさが確認されています。

大田原市教育委員会



古墳群位置図

1号墳は前方後円墳、8号墳は方墳、その他は円墳



右手はすぐ傍の8号墳(方墳)/その左手の方には5号墳、6号墳(中央)が見える



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/ootawara_ssamurai/

http://kofunnomori.web.fc2.com/tochigi/otawara/samu_simo.htm

<http://blog.goo.ne.jp/ttmida/e/9521719bfc4de5abffc7bae2377391b4>

<http://www.powaru358.com/shimosamuraizuka.html>

<http://blogs.yahoo.co.jp/anmituhime14/46930047.html>

<http://www42.atpages.jp/nukatanootama/page033.html>

